



濱まつ

濱松市を中心とする
名所史蹟交通鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

現在、新浜松―西鹿島間運行の遠州鉄道は、天竜浜名湖鉄道（旧国鉄二俣線）に乗り継ぎすれば、周遊の旅が可能となった鉄道である。西遠江の中小民鉄群の中で唯一の生き残りといつてよい。複雑な鉄道史にも言及してみたい。

明治後期に大日本軌道浜松支社が中ノ町線、鹿島（二俣）線を開通。浜松の板屋町で接続する路線だ。さらに、大正三年に綿織物産地として栄えていた笠井への支線（西ヶ崎から）が開通。同八年に遠州軌道が設立して路線を継承、同十年に遠州電気鉄道と改称した。同十三年には貴布禰（現・浜北）から宮口までの支線である系列会社の西遠軌道が開通しており、この頃の状態を示すのが、昭和五年作画の本図である。

前後して大正十四年には、中ノ町線と笠井線を、浜松軌道として経営分離（昭和二年浜松電気鉄道に社名変更）。昭和十二年、日中戦争を契

藤本一美

首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』（私家版2006年）、最新刊に『展望の山50選 関東編』（東京新聞出版局）がある。



遠州鉄道株式会社 Enshu Railway Co., Ltd.

設立：昭和 18 (1943) 年 11 月 1 日
本社：静岡県浜松市中区旭町 12 番地 の 1

浜松市を南北に走る「あかでん」 便利で楽しい鉄道を目指す

遠州鉄道鉄道線は全 18 駅、17.8km の路線。浜松市の中心市街地（新浜松駅）から北遠の玄関口である天竜（西鹿島駅）までを南北に結ぶ。赤い車体色から「あかでん」の愛称で親しまれており、単線ながら日中は 12 分間隔の高密度運行を実現している。平野部を走行するため全線にわたってトンネルはなく、昭和 60 年には市内の交通渋滞解消を目指し、新浜松駅一八幡駅間が高架化され、平成 24 年にはその区間が上島駅まで延伸した。

また、市内外からの旅客誘致に取り組み、昨年 9 月には、大河ドラマの主人公、井伊直虎をモチーフにしたラッピング電車の運行を開始。直虎の PR キャラクター「出世法師直虎ちゃん」や市のマスコットキャラクター「出世大名家康くん」などをプリントし、女性戦国武将・直虎の人気を盛り立てている（平成 30 年 3 月末まで運行予定）。



『濱まつ』[濱松市を中心とする名所史蹟 交通鳥瞰図]

(昭和 5 (1930) 年 5 月発行)
浜松市内の谷島屋書店 発行
犬山の日本ライン 蘇江 観光社 印刷



機に陸運統制令が改正され、鉄道やバス会社の統合が進展。同十八年には遠州電気鉄道を中心に六社が合併し、新設の遠州鉄道となる。

戦時下の浜松は軍都であり、空襲の大被害にあったが、昭和二十一年には復興。翌二十二年に、板屋町（のち東田町）―奥山間の浜松鉄道（大正三年開業、同十二年全通）を遠州鉄道が吸収合併し、奥山線（昭和三十九年廃線）となった。

特色のある大胆な構図の中心には商工都浜松を配置。東は天竜川と袋井、静岡。西に浜名湖と弁天島、館山寺温泉。北には火伏せの秋葉山や岩水寺遊園地、半僧坊などの名所旧跡が点在。両端にはおなじみの富士山や日本ライン、朝鮮釜山などを小さく入れている。

よく見ると台地状の三方原古戦場まで描き、徳川家康が三河より浜松に入城し、曳馬を浜松と改称。家康が駿府に移ってからは、松平、水野、井上等の有力大名の居城として栄えたが、石垣と堀に面影をたどることが出来る。また、NHK大河ドラマ『おんな城主直虎』の主人公は井伊直虎だ。その所縁の地が浜松北郊の井伊谷、龍潭寺は井伊家の菩提寺で、一角を立体絵図として巧みに表現している。私はうかつにも直虎は無知であった。

※遠州鉄道の西鹿島駅は、当時の終点・遠州二俣駅を南に移して、旧国鉄二俣線（昭和 15 年開通、現・天竜浜名湖鉄道）との共用駅となる。